

2023年度

星槎道都大学

授業計画（シラバス）



目 次

7148001	特別支援教育実習(事前指導)(3年)	堀川 厚志 通年	...	1
9140001	学校インターシップ(学校体験活動)(3年)	堀川 厚志 通年	...	3
9140002	学校インターシップ(学校体験活動)(4年)	堀川 厚志 通年	...	5
7141000	保育実習指導	吉江 幸子 通年	...	7
7181000	保育実習指導	吉江 幸子 通年	...	9
7183000	保育実習指導	湯浅 頼佳 通年	...	11
9130001	教育実習(事前・事後指導)(3年)	塩崎 大輔 通年	...	13
9130002	教育実習(事前・事後指導)(4年)	塩崎 大輔 通年	...	15
7283000	スクールソーシャルワーク実習指導	上原 正希 通年	...	17

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事 (科目ナンバリング：SNE123116))				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)、藤根 収(社会福祉学科・特任教)	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者：堀川 厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、教育実習について事前指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板等を参照				

概要

履修目標
特別支援教育の趣旨や内容を理解するとともに、特別支援学校教諭一種免許状取得のために必要な教育実習の意義を理解する。模擬授業等の演習では、教育実習を見据え、学校現場で教壇に立つ教師の役割を意識して学ぶ。
授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(2)(4)(5)に対応する。
到達目標
特別支援学校の教育の概要や教育実習について理解し、障害のある子どもの教育活動や授業づくりに必要な基礎的な知識、技能、態度を身に付ける。

授業全体の内容と概要
特別支援学校教育の概要および授業の実践について理解できるとともに、学校の教育活動全般についても具体的な理解を図るようにする。 「SDG4、質の高い教育をみんなに」の関連科目。
授業の方法
授業はパワーポイント及び配布資料で実施するとともに、学生自らが考えた授業設計や指導案づくり、模擬授業等を実際の学校現場に近い内容で実施する。演習後にはコメントにてフィードバックする。また、夏季休暇等を活用して学校現場の見学や公開授業研究会等に参加させ、レポート提出を行う。なお、指導案やレポートにはコメントにてフィードバックする。学生の質問等については、チャット形式などの支援システムで迅速に回答する。 オンラインになる場合がある

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="radio"/>	プレゼンテーション	<input type="radio"/>	グループワーク	<input type="radio"/>	フィールドワーク	<input type="radio"/>	PBL
<input type="radio"/>	模擬授業	<input type="radio"/>	ロールプレイ	<input type="radio"/>	調査学習	<input type="radio"/>	反転授業
<input type="radio"/>	ディスカッション	<input type="radio"/>	実験・実習・実技	<input type="radio"/>	双方向授業	<input type="radio"/>	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項
障害のある子どもに対する授業者としての姿を想定して授業に臨むこと。 4年に実施する特別支援学校の教育実習(事前・事後指導)の単位取得に必修科目であること。 普段から障害のある子どもの生活や教育に関する新聞記事やテレビ番組等の情報に関心をもつこと。 授業の構想、学習指導案作成にかかわる情報の収集を行うこと。 通年の授業以外に特別支援学校の参観や研究授業等に参加すること。 模擬授業実施では、授業者以外は生徒役、観覧者を担い、多角的に授業を考え改善する態度を身に付けること。 不測の事態の際には、オンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
教職課程(特別支援学校教諭)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件												
単位認定に必要な最低出席回数は、10回以上												
評価方法												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>30%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>60%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	30%	0%	0%	10%	60%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	30%	0%	0%	10%	60%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
特別支援教育の基礎的な知識・技能の理解	知識・技能に関する基礎的な内容について高い関心をもって理解し、さらに深めていくことができるようになった。	知識・技能に関する基礎的な内容について、関心をもって理解し、学ぶことができた。	知識・技能に関する基礎的な内容を学ぶことができた。	知識・技能に関する基礎的な内容について一定程度理解することができた。	知識・技能に関する基礎的な内容の理解ができなかった。
授業づくりに対する思考・判断・表現	自ら授業づくりを構想し、創意工夫を凝らした指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に積極的に取り組んだ。	自ら授業づくりを構想し、指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業に取り組んだ。	指導案作成と模擬授業への取り組みが十分でなかった。
授業や模擬授業への取り組み姿勢	非常に積極的に取り組むことができた。	積極的に取り組むことができた。	関心をもって取り組むことができた。	関心をもって取り組もうとした。	取組態度・姿勢が不十分だった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	特別支援教育実習(事 (科目ナンバリング: SNE123116))				
授業担当者(所属・職名)	堀川 厚志(社会福祉学科・特任教授)、藤根 収(社会福祉学科・特任教	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川 厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	学校現場における教員経験がある教員がその経験を活かして、教育実習について事前指導する。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援教育の基礎・基本 2020』	国立特別支援教育総合研究所	ジアース教育新社	2020	978-4-86371-548-6	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション/シラバスの説明、授業改善アンケート結果反映の説明等	シラバスを読む(90分)	重要事項を整理する(90分)
2	特別支援学校における教育実習の意義や目的について	意義や目的を調べる(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
3	教育実習のスケジュール、留意点と心構え(挨拶、服務規律、注意点)	実習の留意点や心構えを考える(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
4	実習日誌の書き方、文章の書き方	実習日誌の目的、書き方を調べる(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
5	特別支援学校における教育の概要、学習指導の在り方について	特別支援学校の教育の概要を調べる(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
6	授業の在り方(チーム・ティーチングなど)と学習指導案の作成方法について(学習指導案の構成と要素、記入方法等)	特学校の学校の特別疎遠学校の授業の在り方を調べる(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
7	模擬授業の実施方法について(役割分担、説明と反省会等の在り方)	模擬授業の実施模擬授業の方法や役割分担、留意点を調べる(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
8	教科等を合わせた授業について学習指導案の作成方法について	学習指導案の作成方法を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理すること(90分)
9	模擬授業の実施と反省会1	模擬授業の方法や役割分担、留意点を調べる(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
10	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会2	学習指導案から模擬授業の展開について知る(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
11	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会3	学習指導案から模擬授業の展開について知る(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
12	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会4	学習指導案から模擬授業の展開について知る(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
13	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会5	学習指導案から模擬授業の展開について知る(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
14	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会6	学習指導案から模擬授業の展開について知る(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
15	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 授業改善アンケートの実施7	学習指導案から模擬授業の展開について知る(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
16	模擬授業(前半)のまとめと今後の課題 新たな指導の形態による模擬授業実施の説明 模擬授業実施方法の確認	模擬授業の改善点を確認する(90分)	まとめと課題を整理する(90分)

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『特別支援学校学習指導要領』	文部科学省	海文堂出版	2018	978-4-303-12424-3	
2	『教育実習完璧ガイド』	宮崎 猛 小泉博明	小学館	2015	978-4-09-105015-1	
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	授業の在り方(チーム・ティーチングなど)について 授業の展開と教材教具の開発と作成	授業の在り方について調べる(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
18	学習指導案の作成方法について(学習指導案の構成と要素、記入方法等)	学習指導案の作成方法について調べる(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
19	模擬授業の実施と反省会7	模擬授業の展開を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
20	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会8	前回の模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
21	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会9	前回の模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
22	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会10	前回の模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
23	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会11	前回の模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
24	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会12	前回の模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
25	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会13	前回の模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
26	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会14	前回の模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
27	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会15	前回の模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
28	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会16	前回の模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
29	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会17	前回の模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
30	前回の模擬授業の改善点のまとめと確認 模擬授業の実施と反省会18	前回の模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業内容と課題等を整理する(90分)
31	模擬授業(後半)の改善点のまとめ	模擬授業の改善点を確認する(90分)	授業の改善点のまとめを整理する(90分)
32	模擬授業(後半)の改善点のまとめ 学習指導案の作成のまとめ 教育実習の留意点、心構え等の確認	模擬授業の改善点を確認する(90分)	教育実習に必要な事項を整理する(90分)

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	学校インターシップ ^o (学校体 (科目ナンバリング: ESS143164, ESS243112, ESS343105, E SS443107, ESS543116))				
授業担当者(所属・職名)	藤根収(社会福祉学科・特任教授)、堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)、干		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	実務経験のある教員が学校体験活動に必要な事項を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示板などを参照				

概要

履修目標

体験活動において、児童生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、次の目標を達成することができる。
児童又は生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。
教員に求められる資質能力や自らの教員としての適格性を把握することができる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)と(4)と(5)に対応する。
デザイン学科のDP(2)と(4)に対応する。
建築学科のDP(2)と(4)に対応する。
社会福祉学科のDP(2)と(4)と(5)に対応する。

到達目標

学校において一定量の体験活動を行うことにより、学校教育の実際を総合的に理解することができる。

授業全体の内容と概要

学校において学校運営にかかわる体験活動を行うことにより、児童生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解するとともに、教員に求められる資質能力や自らの教員としての適格性を把握する。
活動ごとに活動報告書に記入し、活動体験発表会にて活動状況等について発表する。

授業の方法

学校において、生徒の話し相手、授業補助、学校行事・部活動への参加、事務作業の補助、放課後児童クラブ、放課後教室、土曜授業の補助、特別支援活動等に従事するとともに、活動報告書に具体的な活動及び学修事項を記入する。
体験活動発表会において成果等を発表し全体で共有する。
活動報告書については、評価とコメントにてフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

服装・頭髪はもとより、個人情報取扱い等について体験活動受入先の指示に従うこと。
出席状況、受領態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後学習活動の機会を失うことがある。
担当教員は適宜、体験活動視察及び面談指導を行う。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程(全教科)必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

事前指導・事後指導を含め、高等学校等における体験活動等を4.5分×3.0単位時間(1350分)以上行わなければならない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	0%	80%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性についてよく理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について概ね理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について最低限理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について理解が著しく不足し、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性を十分に思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について概ね思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について最低限思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性がなされず、期待される最低限度の基準に到達できなかった。
意欲(主体的・積極的な取組態度)	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	各体験活動に大変主体的・積極的に取り組むことができた。	各体験活動に概ね主体的・積極的に取り組むことができた。	各体験活動への取組に特段の意欲・積極性は見られなかった。	各体験活動に主体的・積極的に取り組む態度が著しく欠け、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	学校インターンシップ ^o (学校体 (科目ナンバリング: ESS143164, ESS243112, ESS343105, ESS443107, ESS543116))				
授業担当者(所属・職名)	藤根収(社会福祉学科・特任教授)、堀川厚志(社会福祉学科・特任教授)、千	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1 (単位認定責任者: 堀川厚志)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 実務経験のある教員が学校体験活動に必要な事項を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	事前指導・オリエンテーション(シラバスの説明含む)	シラバスを読む(45分)	体験活動のシステムを復習する(45分)
2	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
3	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
4	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
5	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
6	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
7	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
8	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
9	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
10	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
11	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
12	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
13	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
14	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
15	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う(45分)	活動報告書を完成する(45分)
16	事後指導における活動体験の振り返りと体験発表	活動体験をまとめる(45分)	活動報告書の感想を書く(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	学校インターシップ ^o （学校）（科目ナンバリング：ESS143164，ESS243112，ESS343105，ESS443107，ESS543116）				
授業担当者（所属・職名）	藤根収（社会福祉学科・特任教授）、堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）、干		研究室等所在	2号館8階	
単位数	1（単位認定責任者：堀川厚志）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	実務経験のある教員が学校体験活動に必要な事項を指導する。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

体験活動において、児童生徒や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、次の目標を達成することができる。
児童又は生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解することができる。
教員に求められる資質能力や自らの教員としての適格性を把握することができる。

授業の位置づけ

経営学科のDP(2)と(4)と(5)に対応する。
デザイン学科のDP(2)と(4)に対応する。
建築学科のDP(2)と(4)に対応する。
社会福祉学科のDP(2)と(4)と(5)に対応する。

到達目標

学校において一定量の体験活動を行うことで、学校教育の実態を総合的に理解することができる。

授業全体の内容と概要

学校において、学校運営にかかわる体験活動を行うことにより、児童又は生徒の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解するとともに、教員に求められる資質能力や自らの教員としての適格性を把握する。
活動ごとに活動記録を記入し、活動体験発表会にて発表する。

授業の方法

学校において、生徒の話し相手、授業補助、学校行事・部活動への参加、事務作業の補助、放課後児童クラブ、放課後教室、土曜授業の補助、特別支援活動等に従事するとともに、活動日誌に具体的な活動及び学修事項を記入する。
体験活動について全体発表会において成果等を発表し共有する。
活動報告については、評価とコメントにてフィードバックを行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業	○	その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

服装・頭髪はもとより、個人情報取扱い等について体験活動受入先の指示に従うこと。
出席状況、受取態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後学習活動の機会を失うことがある。
担当教員は適宜、体験活動視察及び面談指導を行う。
不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと、修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

事前指導・事後指導を含め、高等学校等における体験活動等を4.5分×3.0単位時間（1350分）以上行わなければならない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	0%	0%	0%	80%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性についてよく理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について概ね理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について最低限理解することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性について理解が著しく不足し、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。
思考力・判断力・表現力等	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性や解決すべき課題について十分に思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性や解決すべき課題について概ね思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性や解決すべき課題について最低限思考・判断することができた。	活動の内容及び学校運営上の意義、教員に求められる資質能力及び自らの適格性や解決すべき課題がなされず、期待される最低限度の基準に到達できなかった。
意欲（主体的・積極的な取組態度）	右の記述について、きわめて高いレベルで実現することができた。	各体験活動に大変主体的・積極的に取り組むことができた。	各体験活動に概ね主体的・積極的に取り組むことができた。	各体験活動への取組に特段の意欲・積極性は見られなかった。	各体験活動に主体的・積極的に取り組む態度が著しく欠け、期待される最低限度の基準に到達することができなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	実習	必修・選択	必修
科目名称	学校インターシップ ^o （学校） （科目ナンバリング：ESS143164，ESS243112，ESS343105，ESS443107，ESS543116）				
授業担当者（所属・職名）	藤根収（社会福祉学科・特任教授）、堀川厚志（社会福祉学科・特任教授）、千	研究室等所在	2号館8階		
単位数	1（単位認定責任者：堀川厚志）	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 実務経験のある教員が学校体験活動に必要な事項を指導する。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1						
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	体験活動のシステムを復習する (45分)
2	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
3	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
4	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
5	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
6	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
7	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
8	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
9	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
10	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
11	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
12	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
13	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
14	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動記録表を完成する (45分)
15	活動受入校における体験活動	事前に受入校と打合せを行う (45分)	活動報告書を完成する (45分)
16	4次事後指導・活動体験発表	活動をまとめる (45分)	活動体験発表の感想を書く (45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS122096)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	湯 浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館2階(吉江)	1号館3階(湯浅)
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育士として保育施設での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解する。 2. 実務実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 児童憲章について理解を深める。 5. 実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業の位置づけ
社会福祉学科のDP(2)(5)に対応する。

到達目標
実習の意義、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項、実習の計画と記録について理解する。

授業全体の内容と概要
実習の意義、実習の内容と課題の明確化、実習に際しての留意事項、実習の計画と記録について学修する。 「SDGs4. 質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法
授業はパワーポイントや視聴覚教材(DVD・ブルーレイ)も取り入れながら演習形式で行う。実習の事前指導及び事後指導も含まれるので必要に応じてグループワークやグループ学習も実施し、その都度発生した疑問・質問などにはフィードバックとして解説を行い、実習終了後は報告会を実施する。Microsoft Teams/Forms の諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法																								
<table border="1"> <tr> <td>○</td> <td>プレゼンテーション</td> <td>○</td> <td>グループワーク</td> <td></td> <td>フィールドワーク</td> <td></td> <td>PBL</td> </tr> <tr> <td></td> <td>模擬授業</td> <td>○</td> <td>ロールプレイ</td> <td></td> <td>調査学習</td> <td></td> <td>反転授業</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ディスカッション</td> <td>○</td> <td>実験・実習・実技</td> <td></td> <td>双方向授業</td> <td></td> <td>その他(授業の方法参照)</td> </tr> </table>	○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL		模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業	○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)
○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL																	
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業																	
○	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)																	

履修上の注意事項
<p>「各授業回数における学習内容」に記載の「準備学習」「事後学習」を参照する事。 レポート、課題、その他(実習先の評価、実習日報、事前・事後学習における態度、書類の提出状況、実習報告書等)を基準に則り評価する。 正当な理由なき遅刻や欠席及び保育者の資格に欠けると判断された学生は、実習をとりやめとする。 実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価(単位認定)しない。 実習全体のまとめと今後の課題を明確にするためのレポート提出1回課す。 なお、詳細(レポート課題・提出方法等)は授業時間に指示する。 実習履修要件として2年次後期の実習進考試験の合格及び次の科目を取得している事を原則とする。 「児童・家庭福祉」「ソーシャルワーク演習」「ソーシャルワークの基礎と専門職」「保育内容演習 - -」。 災害等不測の事態が起こった場合にはオンライン授業になる場合もある。</p>

修学サポート(合理的配慮)
事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。
資格指定科目
保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件												
通年科目であるが、単位認定に必要な最低出席回数は、前期11回以上及び後期11回以上。												
評価方法												
<table border="1"> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>10%</td> <td>0%</td> <td>10%</td> <td>60%</td> </tr> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	10%	0%	10%	60%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	10%	0%	10%	60%							

ルーブリック																																			
<table border="1"> <tr> <th rowspan="2">評価項目</th> <th colspan="5">評価基準</th> </tr> <tr> <th>履修項目を超えたレベルを達成している</th> <th>履修項目をほぼ達成している</th> <th>履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している</th> <th>到達目標を達成している</th> <th>到達目標を達成していない</th> </tr> <tr> <td>知識・技能(何を知っているか、何ができるか)</td> <td>保育の専門的知識について十分理解していた。</td> <td>保育の専門的知識について概ね理解していた。</td> <td>保育の専門的知識について理解していた。</td> <td>保育の専門的知識について多少は理解していた。</td> <td>保育の専門的知識について理解していなかった。</td> </tr> <tr> <td>思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。</td> <td>保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できなかった。</td> </tr> <tr> <td>主体的に取り組む態度(どのように関わるか)</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で多少は表すことができた。</td> <td>保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。</td> </tr> <tr> <td>パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組みることができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。</td> <td>保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。</td> </tr> </table>	評価項目	評価基準					履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない	知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の専門的知識について十分理解していた。	保育の専門的知識について概ね理解していた。	保育の専門的知識について理解していた。	保育の専門的知識について多少は理解していた。	保育の専門的知識について理解していなかった。	思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できなかった。	主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。	パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組みることができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。
評価項目		評価基準																																	
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない																														
知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育の専門的知識について十分理解していた。	保育の専門的知識について概ね理解していた。	保育の専門的知識について理解していた。	保育の専門的知識について多少は理解していた。	保育の専門的知識について理解していなかった。																														
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について十分に考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について概ね考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について多少は考察できた。	保育の基本を踏まえた保育技術の展開について考察できなかった。																														
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で多少は表すことができた。	保育実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。																														
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	保育実習による自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組みることができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	保育実習による自己評価と課題の明確化に取り組むことができなかった。																														

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS122096)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授) 浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	湯 研究室等所在	1号館2階(吉江)	1号館3階(湯浅)	
単位数	2 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容 保育士として保育施設での勤務経験があり、その経験を生かして保育実習に向けた指導を行う。			

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林 幸範 編著	同文書院	2020年	9784810314755	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『実習の手引き』					
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明(吉江・湯浅)	保育所実習の目的について考え、教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
2	保育所実習の意義(1)実習の目的(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
3	保育所実習の意義(2)実習の概要(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
4	保育所実習の内容と課題の明確化(1)実習の内容(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
5	保育所実習の内容と課題の明確化(2)実習の課題(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
6	保育所実習に際しての留意事項(1)子どもの人権と最善の利益の考慮(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
7	保育所実習に際しての留意事項(2)プライバシーの保護と守秘義務(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
8	保育所実習に際しての留意事項(3)実習生としての心構え(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
9	保育所実習の計画と記録(1)指導計画の作成(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
10	保育所実習の計画と記録(2)指導計画の実践(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
11	保育所実習の計画と記録(3)指導計画の改善(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
12	保育所実習の計画と記録(4)実習における記録及び評価(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
13	事後指導における実習の総括と課題の明確化(1)保育所実習の総括と自己評価(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
14	事後指導における実習の総括と課題の明確化(2)課題の明確化(吉江)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
15	保育所実習報告会(吉江)	保育所実習報告会の資料を作成する(45分)	保育所実習報告会のまとめと反省を行う(45分)
16	保育所実習のまとめと振り返り(吉江)	保育所実習のまとめと振り返りの準備をする(45分)	施設実習の目的について考える(45分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17	施設実習のオリエンテーション(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
18	施設実習の意義(1)実習の目的(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
19	施設実習の意義(2)実習の概要(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
20	施設実習の内容と課題の明確化(1)実習の内容(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
21	施設実習の内容と課題の明確化(2)実習の課題(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
22	施設実習に際しての留意事項(1)子どもの人権と最善の利益の考慮(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
23	施設実習に際しての留意事項(2)プライバシーの保護と守秘義務(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
24	施設実習に際しての留意事項(3)実習生としての心構え(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
25	施設実習の計画と記録(1)指導計画の作成(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
26	施設実習の計画と記録(2)指導計画の実践(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
27	施設実習の計画と記録(3)指導計画の改善(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
28	施設実習の計画と記録(4)実習における記録及び評価(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
29	事後指導における実習の総括と課題の明確化(1)保育所実習の総括と自己評価(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
30	事後指導における実習の総括と課題の明確化(2)課題の明確化(湯浅)	教科書の学習内容部分を数回読んでおく(45分)	ノート整理を含めた復習を行う(45分)
31	施設実習報告会(湯浅)	施設実習報告会の資料を作成する(45分)	施設実習報告会のまとめと反省を行う(45分)
32	施設実習のまとめと振り返り(湯浅)	施設実習のまとめと振り返りに向けて準備をする(45分)	施設実習について振り返り考察する(45分)

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS123097)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実習指導の経験を活かし、実習の事前事後指導を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照。				

概要

履修目標

この科目は、以下の5つを授業の目的とする。
 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
 2. 実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
 3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(1)(3)(4)(5)に対応する。

到達目標

保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解し、具体的に述べる。

授業全体の内容と概要

保育実習(保育所実習)の履修者に対して指導を行う。保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について学修する。「SDG4.質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業は、板書とパワーポイント、グループ学習を取り入れ、意見を出し合う場を多く設定する。また、模擬保育を取り入れ、お互いを評価しあう時間を設定する。提出されたレポートにはコメントをつけてフィードバックする。Microsoft Teams/Formsの諸機能を活用し、意見交換、質問、教材配布等を行う。

アクティブラーニングの実施方法

	プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

正当な理由なき遅刻、欠席は実習をとりやめにする。保育者の資格に欠ける者は、実習をとりやめとする。実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価(単位認定)しない。その他実習全体のまとめと今後の課題を明確にするためレポート提出を1回課す。なお、詳細(レポート課題・提出方法等)は授業時間に指示する。保育実習を選択した場合は、必ず保育実習指導を選択すること。
 ・不測の事態が起こった場合には、オンライン授業もあり得る。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

単位認定に必要な最低出席回数は11回以上。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	20%	0%	60%	0%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習に関する知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	保育実習の総合的な学びの意義について深く理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義についておおむね理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義について理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義について多少理解できた。	保育実習の総合的な学びの意義について理解することができなかった。
保育実習に向けた思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	保育実習の総合的な学びと実践力について十分に考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力についておおむね考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力について考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力について多少考察できた。	保育実習の総合的な学びと実践力について考察することができなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性をわかりやすく説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性をおおむね説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性を説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性を多少説明できた。	保育実習の意義や実践力を身につけることの重要性を説明することができなかった。
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによって具体的に報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによっておおむね報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによって報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによって多少報告できた。	自己を向上させるために学修した内容をまとめ、プレゼンテーションによって報告することができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS123097)				
授業担当者(所属・職名)	吉江 幸子(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 吉江 幸子)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	保育現場における実習指導の経験を活かし、実習の事前事後指導を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『実習の手引き』					学内テキスト
2	『新訂しりたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』	石橋裕子・林幸範	同文書院	2020	9784810314755	
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『保育所保育指針<平成29年告示>』	厚生労働省	フレーベル館	2017	9784577814239	
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	シラバスの説明 オリエンテーション	指定した教科書を事前に読むこと(45分)。	1回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
2	事前指導 保育実習 のふりかえり	保育実習 の記録を読み返しておく(45分)。	2回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
3	事前指導 保育実習 の目的・内容・方法	実習の手引きについて事前学習しておく(45分)。	3回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
4	事前指導 実習課題の設定	保育実習 の課題を省察する(45分)。	授業終了時に示す課題を作成する(45分)。
5	事前指導 指導計画の立案について	2年次履修「保育課程論」を読み返しておく(45分)。	5回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
6	保育実習による総合的な学び(1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	教科書の「実習の準備」を事前学習しておく(45分)。	6回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
7	保育実習による総合的な学び(2)子どもの保育と保護者支援	教科書の「保育実技」を事前学習しておく(45分)。	7回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
8	保育実践力の育成(1)子どもの状態に応じた適切なかわり	教科書の「保育実技」を事前学習しておく(45分)。	8回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
9	保育実践力の育成(2)保育の表現技術を生かした保育実践	教科書の「保育実技」を事前学習する(45分)。	9回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
10	保育実践力の育成(3)未満児・以上児における指導案の作成と事前準備	乳児及び未満児対応について事前学習する(45分)。	10回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
11	計画と観察、記録、自己評価(1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	教科書の「記録」を事前学習しておく(45分)。	11回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
12	計画と観察、記録、自己評価(2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	実習記録用紙書式をよく確認しておく(45分)。	12回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
13	事後指導 保育園における保育士の職務	実習のまとめ・報告準備を進める(45分)。	13回目の授業で理解した点を整理する(45分)。
14	事後指導 実習報告会の実施	報告会の準備、練習をしておく(45分)。	報告会の自己評価をする(45分)。
15	事後指導 実習の総括と今後への課題	実習で学んだ事、課題を整理しておく(45分)。	授業の目的の達成度を自己評価する(45分)。
16	提出レポート、課題の解説とフィードバック	実習内容を振り返り課題抽出(45分)。	課題の解説に基づき復習し整理する(45分)。

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS123098)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳(社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。
2. 実習や就職の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。
5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP(2)(5)に対応する。

到達目標

保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について理解する。

授業全体の内容と概要

保育実習(施設実習)の履修者に対して指導を行う。保育実習による総合的な学び、保育実践力の育成、計画と観察、記録、自己評価、保育士の専門性と職業倫理について学修する。

授業の方法

授業はパワーポイントや視聴覚教材(DVD・ブルーレイ)も取り入れながら演習形式で行う。実習の事前指導及び事後指導も含まれるので必要に応じてグループワークやグループ学習も実施し、その都度発生した疑問・質問などにはフィードバックとして解説を行い、実習終了後は報告会を実施する。

アクティブラーニングの実施方法

○	プレゼンテーション	○	グループワーク		フィールドワーク		PBL
	模擬授業	○	ロールプレイ		調査学習		反転授業
	ディスカッション	○	実験・実習・実技		双方向授業		その他(授業の方法参照)

履修上の注意事項

「各授業回数における学習内容」に記載の「準備学習」「事後学習」を参照する事。10回以上の出席がなければ、成績評価の対象としない。正当な理由なき遅刻、欠席は実習をとりやめにする。保育者の資質に欠ける者は、実習をとりやめとする。実習終了後の書類提出の期日を守らない場合は評価(単位認定)しない。保育実習実施後、原稿用紙(400字)約3枚程度のレポート提出を1回課す。その他実習全体のまとめと今後の課題を明確にするため原稿用紙(400字)約4枚程度のレポート提出を1回課す。なお、詳細(レポート課題・提出方法等)は授業時間に指示する。「保育実習指導」は、保育士資格を取得するための必修科目である。「保育実習指導」が「保育実習指導」のいずれかを必ず選択すること。
・不測の事態の際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート(合理的配慮)

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

保育士養成課程

評価方法・基準

評価前提条件

授業回数の3分の2(11回)以上の出席がなければ、成績評価の対象としない。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	10%	0%	10%	60%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にいるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・技能(何を知っているか、何ができるか)	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について十分に理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について概ね理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について多少は理解できた。	児童福祉施設等における保育の専門知識の活用について理解できなかった。
思考力・判断力・表現力等(知っていること、できることをどう使うか)	児童福祉施設等における保育技術の展開について十分に考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について概ね考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について多少は考察できた。	児童福祉施設等における保育技術の展開について考察できなかった。
主体的に取り組む態度(どのように関わるか)	施設実習による総合的な学びを、記録で十分に表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で概ね表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で多少表すことができた。	施設実習による総合的な学びを、記録で表すことができなかった。
パフォーマンス(知識、スキルを使いこなす活用、応用)	施設実習において自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に概ね取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に多少は取り組むことができた。	施設実習において自己評価と課題の明確化に積極的に取り組むことができなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	保育実習指導 (科目ナンバリング: CHS123098)				
授業担当者(所属・職名)	湯浅 頼佳 (社会福祉学科・専任講師)	研究室等所在	1号館3階		
単位数	1 (単位認定責任者: 湯浅 頼佳)	CAP制			
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新訂 知りたいときにすぐわかる幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド 第二版』	石橋裕子・林幸範	同文書院	2018	9784810314755	
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『実習の手引き』					
2	『学内テキスト』					
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション及びシラバスの説明 授業改善アンケート結果反映の説明	「保育実習」の報告書や日誌などを再読する(4.5分)	シラバスの確認をする。「保育実習」での課題を明確にする(4.5分)
2	事前指導 保育実習 のふりかえり	前回の授業で出された課題について予習する(4.5分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(4.5分)
3	事前指導 保育実習 の目的・内容・方法	前回の授業で出された課題について予習する(4.5分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(4.5分)
4	事前指導 実習課題の設定	前回の授業で出された課題について予習する(4.5分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(4.5分)
5	事前指導 援助計画の立案について	前回の授業で出された課題について予習する(4.5分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(4.5分)
6	保育実習による総合的な学び(1)子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解	前回の授業で出された課題について予習する(4.5分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(4.5分)
7	保育実習による総合的な学び(2)子どもの保育と保護者支援	前回の授業で出された課題について予習する(4.5分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(4.5分)
8	保育実践力の育成(1)子どもの状態に応じた適切なかわり	前回の授業で出された課題について予習する(4.5分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(4.5分)
9	保育実践力の育成(2)保育の表現技術を生かした保育実践	前回の授業で出された課題について予習する(4.5分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(4.5分)
10	計画と観察、記録、自己評価(1)保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践	前回の授業で出された課題について予習する(4.5分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(4.5分)
11	計画と観察、記録、自己評価(2)保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善	前回の授業で出された課題について予習する(4.5分)	課題についての復習を含め授業ノートを作成しまとめる(4.5分)
12	事後指導 児童福祉施設等における保育士の職務	前回の授業で出された課題について予習する(4.5分)	課題についての復習を含め報告会の資料を作成する(4.5分)
13	事後指導 実習報告会の実施	報告会のシミュレーションをしておく(4.5分)	報告会について考察する(4.5分)
14	事後指導 実習評価と自己覚知	自己評価表を作成する(4.5分)	実習評価と自己評価について考察する(4.5分)
15	事後指導 実習の総括	「保育実習」のまとめを行う(4.5分)	「保育実習」について考察する(4.5分)
16	保育実習のまとめとふりかえり 授業改善アンケートの実施	「保育実習」をまとめる(4.5分)	「保育実習」についてふりかえりをする(4.5分)

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教育実習（事前・事後）（科目ナンバリング：EDU143165，EDU243113，EDU343107，E） DU443109，EDU543118				
授業担当者（所属・職名）	藤根 収（社会福祉学科・特任教授）、 堀川 厚志（社会福祉学科・特任教		研究室等所在	未定	
単位数	1	（単位認定責任者： 堀崎 大輔）	CAP制	×	
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員の研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

（事前指導）教育実習生として必要な資質を理解し、教師として基礎的な知識や技能の修得することができる。（事後指導）教育実習の終了後、自らの教育実習を反省し、課題等を確認し、教師としての今後の展望を見いだす。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP（4）（5）に対応する。
経営学科のDP（4）に対応する。
デザイン学科のDP（4）」に対応する。
建築学科のDP（4）」に対応する。

到達目標

「教育実習」の目的・意義を理解し、生徒の実態や教科の目標・特性に応じた学習指導案を作成することができる。

授業全体の内容と概要

「教育実習」の目的・意義を具体的に理解し、生徒の実態や教科の目標・特性に応じた学習指導案を模擬授業をととして作成することができる。また、「教育実習」の自覚と責任を高め、社会人・教師としての知識・技能・態度目標を意欲的に培うことができる。
「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。テキスト及び配布資料等を中心に講義を行う。また、後期には実践的な模擬授業が始まるので、教材研究・プリント作成・板書計画など関連する項目において、意欲的な態度で臨むこと。なお、模擬授業終了後はコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。
不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・無断欠席は、大きく減点される。学生の立場ではなく、教員としての立場が求められる。
・教育実習（事前・事後指導）の単位認定は、4年の後期に行われる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	20%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	・レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現することができた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究がしっかりできていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究ができていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究ができていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究ができていなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現することができた。	実践的な模擬授業において、より詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされず、授業として成立していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・3年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教育実習（事前・事後）（科目ナンバリング：EDU143165，EDU243113，EDU343107，E DU443109，EDU543118）				
授業担当者（所属・職名）	藤根 収（社会福祉学科・特任教授）、 堀川 厚志（社会福祉学科・特任教		研究室等所在	未定	
単位数	1（単位認定責任者：塩崎 大輔）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会編	蒼丘書林	2000	9784915442117	
2	『教育実習完璧ガイド』	宮崎猛編	小学館	2015	9784091050151	
3	『教育実習の手引（第7版）』	北海道私立大学教職課程研究連絡協議会編	学術図書出版社	2019	9784780607772	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	前期オリエンテーション（シラバスの説明を含む）、教育実習の目的と意義、前年度の授業改善アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。（45分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（45分）
2	挨拶の実際1、教育実習の準備と心得	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
3	挨拶の実際2、実習校での禁止事項等	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
4	自己紹介の実際1、受け入れ学校の声	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
5	自己紹介の実際2、	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
6	自己紹介の実際3、	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
7	板書計画	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
8	学級指導の実際1	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
9	学級指導の実際2	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
10	学級指導の実際3	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
11	教育実習における授業の実際（VTRから学ぶ）	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
12	学習指導案の作成（基本）	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
13	教科別模擬授業（導入の実際）1	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
14	教科別模擬授業（導入の実際）2	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
15	教科別模擬授業（導入の実際）3	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
16	まとめ、課題（レポート・学習指導案など）の解説	まとめの準備をしておくこと。（45分）	まとめの整理をしておくこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 各教科編（最新版）』					
2	『高等学校学習指導要領解説 各教科編（最新版）』					
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	後期オリエンテーション（シラバスの説明を含む）、模擬授業の日程について	事前にシラバスを読んでいること。（45分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（45分）
18	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
19	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
20	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
21	学習指導案の作成	教材研究の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
22	学習指導案の作成	教材研究の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
23	学習指導案の作成	教材研究の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
24	プリント・板書計画の作成	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
25	プリント・板書計画の作成	事前にテキストの範囲を読んでいること。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
26	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
27	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
28	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
29	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
30	模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
31	教育実習体験発表（4年）	教育実習体験発表を聞く準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
32	まとめ、課題（レポート・学習指導案など）の解説、授業改善アンケートの実施	まとめの準備をしておくこと。（45分）	まとめの整理をしておくこと。（45分）

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教育実習（事前・事後）（科目ナンバリング：EDU143165，EDU243113，EDU343107，E，DU443109，EDU543118）				
授業担当者（所属・職名）	藤根 収（社会福祉学科・特任教授）、 堀川 厚志（社会福祉学科・特任教	研究室等所在	未定		
単位数	1（単位認定責任者：堀崎 大輔）	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				
オフィスアワー	各教員研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

履修目標

（事前指導）教育実習生として必要な資質を理解し、教師として基礎的な知識や技能の修得することができる。（事後指導）教育実習の終了後、自らの教育実習を反省し、課題等を確認し、教師としての今後の展望を見いだす。

授業の位置づけ

社会福祉学科のDP（4）（5）に対応する。
経営学科のDP（4）に対応する。
デザイン学科のDP（4）」に対応する。
建築学科のDP（4）」に対応する。

到達目標

教育実習の終了後、自らの教育実習を反省し、課題等を確認し、教師としての今後の展望を見いだすことができる。

授業全体の内容と概要

「教育実習」の目的・意義を具体的に理解し、生徒の実態や教科の目標・特性に応じた学習指導案を模擬授業をととして作成することができる。また、「教育実習」の自覚と責任を高め、社会人・教師としての知識・技能・態度目標を意欲的に培うことができる。「SDG4・質の高い教育をみんなに」の関連科目。

授業の方法

授業形態は講義形式であるが、板書の他に視聴覚メディア等を利用する。前期は実習前なので実践的な模擬授業が中心である。後期は3年の模擬授業を見学し、教育実習の反省点や課題を見つけると共に3年の教育指導も行う。なお、模擬授業終了後にはコメントにてフィードバックする。

アクティブラーニングの実施方法

プレゼンテーション		グループワーク		フィールドワーク		PBL
模擬授業		ロールプレイ		調査学習		反転授業
ディスカッション		実験・実習・実技		双方向授業		その他（授業の方法参照）

履修上の注意事項

出席状況、受講態度の点で適格性を欠いていると判断された学生は、以後受講できなくなる場合があるので、真剣な取り組みを要する。不測の事態が起きた際にオンライン授業を実施する場合がある。

修学サポート（合理的配慮）

事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員（大学）が同意のもと修学サポートする。

資格指定科目

教職課程（全教科）必修科目

評価方法・基準

評価前提条件

・無断欠席は、大きく減点される。学生の立場ではなく、教員としての立場が求められる。
・教育実習（事前・事後指導）の単位認定は、4年の後期に行われる。

評価方法

定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他
0%	20%	30%	0%	20%	30%

ルーブリック

評価項目	評価基準				
	履修項目を越えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間にあるレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
知識・理解	・レポート課題において、9割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、8割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、7割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、6割以上の得点を取ることができた。	・レポート課題において、6割以上の得点を取ることができなかった。
関心・意欲・態度	右の記述を高いレベルで実現できた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究がしっかりとできていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究ができていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究ができていた。	教科書読解・資料作成・板書計画などの教材研究ができていなかった。
思考力・判断力・表現力	右の記述を高いレベルで実現できた。	実践的な模擬授業において、より詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、詳細な教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされ、授業として成立していた。	実践的な模擬授業において、教材研究がなされず、授業として成立していなかった。

基本情報

科目分類区分	自由科目	対象学科・配当	全学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	課程必修
科目名称	教育実習（事前・事後）（科目ナンバリング：EDU143165，EDU243113，EDU343107，E DU443109，EDU543118）				
授業担当者（所属・職名）	藤根 収（社会福祉学科・特任教授）、 堀川 厚志（社会福祉学科・特任教		研究室等所在	未定	
単位数	1（単位認定責任者：塩崎 大輔）	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容				

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会編	蒼丘書林	2000	9784915442117	
2	『教育実習完璧ガイド』	宮崎猛編	小学館	2015	9784091050151	
3	『教育実習の手引（第7版）』	北海道私立大学教職課程研究連絡協議会編	学術図書出版社	2019	9784780607772	
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
1	前期オリエンテーション（シラバスの説明を含む）、 模擬授業の日程など 前年度の授業アンケート結果反映の説明	事前にシラバスを読んでいること。（45分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（45分）
2	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
3	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
4	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
5	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
6	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
7	模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
8	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
9	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
10	模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
11	模擬授業の見学（4年）	模擬授業の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
12	模擬授業の見学（4年）	模擬授業の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
13	模擬授業の見学（4年）	模擬授業の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
14	模擬授業の見学（4年）	模擬授業の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
15	模擬授業の見学（4年）	模擬授業の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
16	まとめ、課題（レポート・学習指導案など）の解説	まとめの準備をしておくこと。（45分）	まとめの整理をしておくこと。（45分）

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『中学校学習指導要領解説 各教科編（最新版）』					
2	『高等学校学習指導要領解説 各教科編（最新版）』					
3						
4						
5						

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習（所要時間）	事後学習（所要時間）
17	後期オリエンテーション（シラバスの説明を含む）、 模擬授業の日程について	事前にシラバスを読んでいること。（45分）	今回の授業内容を復習しておくこと。（45分）
18	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
19	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
20	模擬授業の見学（4年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
21	模擬授業の実施	模擬授業の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
22	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
23	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
24	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
25	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
26	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
27	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
28	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
29	模擬授業の見学（3年）	模擬授業見学の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
30	教育実習体験発表（4年）	教育実習体験発表を聞く準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
31	教育実習体験発表（4年）	教育実習体験発表を聞く準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）
32	教育実習後の反省と課題について 授業改善アンケートの実施	教育実習後の反省と課題の準備をしておくこと。（45分）	今回の授業内容をまとめておくこと。（45分）

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング: SWS123055)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制	×		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		
オフィスアワー	研究室前の掲示ボード等を参照				

概要

<p>履修目標</p> <p>学校教育法第1条で定める学校のうち原則として18歳未満の児童生徒を対象とした学校、同法で定める学校に関する施設・機関等、地方教育行政の組織及び運営に関する法律で定める教育委員会等、その他教育基本法及び地方公共団体の条例等で定める学校教育に関する施設・機関、組織その他の施設・機関等(以下「学校現場等」という。)において、学校及び日常での生活を営む上で課題の解決を要する児童生徒とその家庭及びその児童を取り巻く環境・学校・社会・制度等を「講義や演習」を通して体験的に学ぶスクールソーシャルワーク実習に必要な視点・知識・スキルなどを身につける。</p>
--

<p>授業の位置づけ</p> <p>社会福祉学科のDP(1)(2)(3)(4)(5)に対応する。</p>

<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スクール(学校)ソーシャルワーク実習の意義について理解する。 2. 学校現場等を知り、学校組織を演習を通して体験的に理解する。 3. スクール(学校)ソーシャルワーク委員会にかかる個別指導並びに集団指導を通して学校における相談援助活動やソーシャルワーク実践にかかる知識と技術について具体的に実務的に理解し実践的な技術等を修得する。 4. 教育の場で生かせる社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等総合的に対応できる能力を習得する。 5. 具体的な体験や援助活動を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。 6. 留意された現場ではなく社会福祉が展開されるべく新しい現場に入るという意味を十分理解し、開拓の視点を養う。
--

<p>授業全体の内容と概要</p> <p>次に掲げる事項について、演習(個別指導及び集団指導)を行うものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ア. スクール(学校)ソーシャルワーク実習の意義 イ. 学校、教育委員会、教育センター、適応指導教室など基本的な理解 ウ. 実習先で必要とされる相談援助(子ども、家族、教員対象)に係る知識と技術に関する理解 エ. 実習先で必要とされるチームで対応する力やケース会議に係る知識と技術に関する理解 オ. 実習先の市の子ども相談体制について理解 カ. 現場体験学習(個別面接、ケース会議、連携会議など)、見学実習 キ. 実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解 ク. 実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する理解 ケ. 実習生、実習担当専任教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 コ. 巡回指導

<p>授業の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業形態は講義・演習形式である。 2. 資料を適宜配布し、ポイントとするべきは説明・板書を行う。 3. 適宜質問を促し、対応する。 4. 自然災害等などの状況により、オンラインの授業等に変更になる場合もある。 5. 学校や教育委員会への訪問・講義受講なども実施予定である。

アクティブラーニングの実施方法							
<input type="checkbox"/>	プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	グループワーク	<input type="checkbox"/>	フィールドワーク	<input type="checkbox"/>	PBL
<input type="checkbox"/>	模擬授業	<input type="checkbox"/>	ロールプレイ	<input type="checkbox"/>	調査学習	<input type="checkbox"/>	反転授業
<input type="checkbox"/>	ディスカッション	<input type="checkbox"/>	実験・実習・実技	<input type="checkbox"/>	双方向授業	<input type="checkbox"/>	その他(授業の方法参照)

<p>履修上の注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必要な資料等は適宜配布する。 2. 3・4年次に相談援助実習指導および相談援助実習を履修済みおよび履修見込みである。 3. 4年次に開講される精神保健福祉援助実習・相談援助実習を履修しない。 4. 将来、教育の分野でスクールソーシャルワーカーとして勤務することを強く願う、意欲のある学生に開講する。 5. スクールソーシャルワーカー等のお話を聞く授業等では、個人情報に触れることもあることから守秘義務の順守が求められる。 6. 自然災害等などの状況により、オンライン授業などの授業に変更になる場合もある。

<p>修学サポート(合理的配慮)</p> <p>事前相談を受け、本学の基本方針及び規程等に基づき、学生・教員(大学)が同意のもと修学サポートする。</p>
<p>資格指定科目</p> <p>スクール(学校)ソーシャルワーカー資格課程、社会福祉士国家試験受験資格課程</p>

評価方法・基準

<p>評価前提条件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業は10回開催する。 2. 最低8回は出席する。 3. その他については、レポート20%・その他は出席および出席度が80%の評価とする。 4. 成績評価分布の目標について「S」は履修者の10%以内とし、「A」と「S」を含めて履修者の40%以内とする。 <p>但し、履修者が10人未満の授業科目は、授業形態等を考慮し、成績評価の割合の対象外とする(絶対評価と相対評価を併用する)。</p>												
<p>評価方法</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定期試験</th> <th>レポート</th> <th>課題・作品</th> <th>中間テスト</th> <th>平常点</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0%</td> <td>20%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>80%</td> </tr> </tbody> </table>	定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他	0%	20%	0%	0%	0%	80%
定期試験	レポート	課題・作品	中間テスト	平常点	その他							
0%	20%	0%	0%	0%	80%							

ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	履修項目を超えたレベルを達成している	履修項目をほぼ達成している	履修目標と到達目標の間に係るレベルに達成している	到達目標を達成している	到達目標を達成していない
実習中の利用者との関わりについて説明する。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的に説明でき、且つ、具体的な技法との関連を説明できた。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的に説明でき、且つ、具体的な技法との関連を説明できた。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的に説明できた。	実習中の利用者とのコミュニケーション場面における成功事例と失敗事例を振り返り、それを具体的に説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
実習中の他職種・他機関連携をSW理論・技法と位置付けて説明する。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なSW理論と結び付けて説明でき、且つ、ジェネリックソーシャルワークの視点から普遍的なSW理論に昇華できた。	実習中の他職種・他機関連携を全て説明でき、実習の領域の特性と合わせて説明できた。	実習中の他職種・他機関連携について、どんな職種・機関と連携したかを説明できた。	実習中の他職種・他機関連携について具体的なSW理論と結び付けて説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。
実習中の地域連携について説明する。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務をSW理論を用いて説明でき、且つ、地域ネットワーク構築の特徴を考察できた。	実習中の地域連携について説明でき、具体的などんな機関と連携し、どのようなSW実践を行ったかを説明できた。	実習中の地域連携について説明でき、その具体的な業務内容をSW理論を用いて説明できた。	実習中の地域連携について説明できた。	左記の内容が何一つできなかった。

基本情報

科目分類区分	専門科目	対象学科・配当	社会福祉学科・4年		
開講時期	通年	授業形態	演習	必修・選択	選択
科目名称	スクールソーシャルワーク実習指導 (科目ナンバリング: SWS123055)				
授業担当者(所属・職名)	上原 正希(社会福祉学科・教授)	研究室等所在	1号館2階		
単位数	1 (単位認定責任者: 上原 正希)	CAP制	x		
実務経験のある教員の授業科目	実務経験あり	左記に該当する場合の実務経験と授業関連内容	社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員の資格を持ち、ソーシャルワーカー、日本および北海道ソーシャルワーカー協会理事としての自分自身の経験や体験談を踏まえ講義を行う。		

教科書・参考文献・資料等

教科書						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『別途指示します。』					
2						
3						
4						
5						

参考文献・資料等						
No	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN	備考
1	『入門 スクールソーシャルワーク論』	内田 宏明	ミネルヴァ書房	2022	9784623093373	価格 \ 3,080
2						
3						
4						
5						

授業計画

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
1	オリエンテーション ・シラバスの説明 ・前年度実施した授業改善アンケートの結果反映の	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
2	・実習必要書類の作成	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
3	・実習先で必要とされる相談援助(子ども、家族、教員対象)に係る知識と技術に関する理解 ・実習先で必要とされるチームで対応する力やケー	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
4	・実習先の市の子ども相談体制について理解力 ・現場体験学習(個別面接、ケース会議、連携会議など)、見学実習	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
5	・実習における個人のプライバシー保護と守秘義務等の理解 ・実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関する	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
6	・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理、実習におけるスクール(学校)ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
7	・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理、実習におけるスクール(学校)ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
8	・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理、実習におけるスクール(学校)ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
9	・実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理、実習におけるスクール(学校)ソーシャルワーク実習としての不足分のレポート、実習総括レポートの作成	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
10	・実習の評価全体総括会 ・授業改善アンケートの実施	指定した資料を事前に読んでおくこと(90分)	ノート整理を行うこと(90分)
11			
12			
13			
14			
15			
16			

授業計画			
回	各授業回における学習内容及び授業外学修として準備学習・事後学習の内容・時間		
	学習内容	準備学習(所要時間)	事後学習(所要時間)
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			